

♪ 音楽とともに輝くまちをめざして♪



2020.02

INTERVIEW

松村 京子 さん

音楽に携わられるお仕事をお仕事を20年以上されておられる松村さん。現在は、音楽と芸術で表現する音楽グループ「オトテ」と「ささやまフルートコンサート」を主宰され、篠山音楽協会、童謡グループ「きぬがさ」、八上うたおう会の指導者兼指揮者など、様々な団体やグループに所属し活動に参加されています。

丹波篠山市女性委員会委員も2期務められ、第9期では可燃ごみの減量化やゴミ袋のデザインの多言語表示等、環境問題について市長に提言されました。

常に前向きにチャレンジを続けられている松村さんにお話をお聞きしました。

所属・経歴等 グループ「笹の音」会員/ささやま市民ミュージカル第1回・第2回歌唱指導/音楽グループ「オトテ」主宰/ささやまフェスティバル～おさぎの集い～実行委員長/ NPO 法人「風和」非常勤音楽講師/篠山音楽協会常任幹事/童謡グループ「きぬがさ」、八上うたおう会指導者兼指揮者/篠山市第8期女性委員会委員/丹波篠山市第9期女性委員会副委員長/ささやまフルートコンサート主宰/第1回日本フルートフェスティバルin兵庫～兵庫五国の笛祭り～ 丹波部会実行委員長/日本の童謡・唱歌を広める会運営委員

はじめて働かれたのは？

音楽大学卒業後、京都府の公立中学校と私立高等学校で非常勤講師として、平成7年から平成19年8月まで12年間勤務し、子どもの出産を期に退職しました。

当時、中学校で2年生に音楽を教えていた何気ない日常の中で、私が教室に入った時に拍手で迎えてもらうことができました。「先生、今日もあの歌（マイバラード）を歌おう！」とピアノに集まる生徒たちの笑顔を思い出すと、今でも心がジンとします。

現在の音楽活動の内容は？

フルートの演奏活動や、音楽指導をしています。

最近は福祉施設や地域の集まりに呼ばれ、音楽の時間を担当することが増えました。

フルート演奏と一緒に歌を歌うことで一体感を味わってもらい、「音楽の力」でリラックスしてもらえることが嬉しいです。



音楽に携わる仕事のきっかけは？

大学時代の恩師に、特別養護老人ホームのボランティアをしてみないかと誘われ、軽い気持ちでお手伝いに行かせてもらいました。

その時に、車イスの高齢者の方の手をさすりながら懐かしい歌を聴いたり歌ったりすると、最初は表情が少なかった高齢者の方が見違えるほど生き生きとしてくる様子を見ました。

音楽によって人の感情が動くこと、「音楽の力」を目の当たりにして、さらに音楽に魅力を感じました。

「音楽の力」を知り得たこの経験は、自分にとって財産だ！と思ったことが、音楽に携わる仕事をするきっかけになりました。

チャレンジしていることは？

昨年の春に一念発起して、兵庫県音楽療法士認定講座を受験し、合格しました。6月から資格取得を目指して、神戸に通う日々です。現在は実践講座と関連講座の単位を取り終え、10月からは実技講座に進んでいます。施設も決まり、春から実習に行けることになりました。

結婚をして子育てをする中で、子どもが小さい間は集中して子育てをしたいと思い、子どもの成長を見ていても楽しかったのですが、だんだん大きくなり手がからなくなってきました。そのタイミングで、音楽療法士の先輩から、「そろそろあなたもこれからは見据えてステップアップしたら。」と言われました。丹波篠山市での音楽療法士の需要が増えているので、微力ながら役に立ちたいという思いと、また、子どもに頑張っている母親の姿を見せたい！という思いもあり、チャレンジすることにしました。

夫と子どもが、私の一番の理解者でいてくれることとても感謝しています。私がチャレンジすることを応援し、快く家事に協力してくれ、また精神的にも支えてくれています。



平成27年5月議場でのコンサートの様子

教えて松村さん♪ Q&A



Q：これまでの経験（仕事やプライベート）で、印象的なことは？

A：東日本大震災の被災地応援で現地へ向かい、朗読劇のバックでフルートを演奏した時に、5歳ぐらいの女の子に「この曲好き。ありがとう。」と言われたことです。

Q：仕事のやりがいを感じる時は？

A：私の演奏や指導で、皆さんの気持ちが動いていることを実感した時です。演奏を聴いて涙してくださったり、指揮に合わせて大きな声で歌われる姿を見ることで成果を感じています。

Q：仕事のモチベーションが下がった時の対処法は？

A：インターネットなどで、自分が知らない曲や変わった曲、面白いアレンジ曲を見つけるようにします。新たな発見をすることで自分の想像力、発想力、表現力を膨らませていくようにしています。

これからしたいことは？

音楽療法の原理で「同質の原理」というものがあります。落ち込んだ時には、元気な曲ではなく、気分と合致した悲しい曲を聴くと気持ちが浄化されると言われています。

モーツァルトの曲には、聴くと脳のα波が出るリラックス効果があると言われています。

このように、音楽がもつ力を信じて、音楽が「聴くクスリ」となることを広く伝えていきたいと考えています。

また、音楽には季節感が大事だと思っています。普段の食事や季節の行事など、できるだけ旬を感じるようにしています。日本の曲には四季があり、季節に沿った音楽を皆さんにお伝えしていきたいと思っています。

これまでの音楽を通じての触れ合い、子育てサークルやPTA、各企画を経てつながった人との出会いに感謝しています。今までの活動の中でも、たくさんの方々に助けていただきました。

丹波篠山市は温かい人が多いです。もっと住む人が増えて欲しいし、色々な職業の方と交流したいと思っています。

これからも皆さんのお役に立てる企画を、また楽しんでいただけることを目指して活動していきたいと思っています。ご縁を大切にしたいです。

実は、子どもの自由研究がきっかけで、昨年の春から自宅で天然ウナギを飼育しています。「ウィリアム・ウナ五郎・松村」と言います。



女性委員会活動の1シーン

昔の篠山川のように大きなウナギが当たり前になる環境作りにも興味があります。第9期女性委員会の提言のテーマ、～これからも続く美しい「丹波篠山市」のために～にもつながっていますね。